

E-1 :研究力分析とその活用

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 10:30 - 12:00 会場E

研究基盤のデジタルトランスフォーメーション (DX)

研究基盤のデジタルトランスフォーメーション(DX)
～新常態に備えた研究基盤の変革を考える～

研究基盤(研究設備、機器)は、大学の研究活動にはなくてはならないインフラである。また、充実した研究基盤は研究者や学生に魅力ある研究環境を提供するなど、研究教育の可能性を最大化するプラットフォームとして機能する。一方、国立大学等の設備整備予算および運営費交付金の削減等により、研究基盤の老朽化が進み、研究教育の基盤維持に困難な状況が生じるなど危機的な状況に直面している。さらに、新型コロナウイルス収束のめどが立たないなか、様々な感染リスク低減対策の実施に加え、いかにして研究教育活動を維持できるか、ニューノーマル(新常態)への研究基盤の変革が不可避となっている。

本セッションでは、省庁関係者による最新の研究基盤に関する政策動向、研究基盤に大きな価値を生み出す流れとなるデジタルトランスフォーメーション(DX)の先端事例紹介や遠隔利用のデモンストレーション、新たな研究データ管理マネジメントシステムの紹介を交えながら、研究基盤の変革にURAが担うべき役割やいかに研究基盤を強化しイノベーションのゆりかごとするかなど、今後の新常態に備えた研究基盤の変革に向けた戦略立案について考える機会とする。

セッション担当者

佐々木 隆太: 北海道大学

創成研究機構グローバルファシリティセンター
副センター長



筑波大学生命環境科学研究科博士課程修了。2014年から金沢大学にて、事業構想、研究支援などURAとして活動。2017年より北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンターに着任し、大学の可能性を最大化する研究基盤の構築を進めている。加えて、高度科学技術と社会の関係性、深化のあり方を研究対象として活動中。

登壇者

丸山 浩平 (司会) : 早稲田大学

リサーチイノベーションセンター研究戦略部門
教授



JUKI(株)にて産業用機械のR&D、技術戦略企画、新規事業開発等を担当した後、早稲田大学でバイオセンシング研究に従事。2009年から同大学研究戦略センター(URA組織)の立上げに参画し、複数の大学で全学的な研究力強化などURA活動に従事。JST・CRDS特任フェロー兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。研究基盤である計測分析機器の最新動向を探るとともに、URAが行うべき役割を考えます。

下須賀 雅壽 : 文部科学省

科学技術・学術政策局 研究開発基盤課
専門官



文部科学省に入省後、研究開発基盤課において2013-14年に共用事業(先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業)を担当、資源エネルギー庁への出向後、文部科学省へ戻り、人材政策課(JST担当)、米国への留学を経て現職。研究者の方にとってより良い研究基盤・環境を構築すべく政策を推進。

江端 新吾 :

東京工業大学
戦略的経営オフィス オープンファシリティセンター
教授 総括理事・副学長 特別補佐 オープンファシリティセンター長補佐
内閣府
政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付
上席科学技術政策フェロー



2009年北海道大学にて博士(理学)を取得。大阪大学、北海道大学にて宇宙科学研究・分析機器開発に従事。北海道大学URAステーション副ステーション長、同大グローバルファシリティセンター副センター長等を歴任し、2019年より東京工業大学に着任。現在内閣府上席科学技術政策フェロー、文部科学省科学技術・学術審議会研究開発基盤部会委員、研究基盤イノベーション分科会等を通じ研究基盤政策の専門家として活動。

一村 信吾 : 早稲田大学 リサーチイノベーションセンター
研究戦略部門 教授



1981年工学博士(大阪大学)。1982年電子技術総合研究所(現産業技術総合研究所:産総研)に入所。2004年産総研計測フロンティア研究部門長、2007年同所理事、2012年同副理事長。2014年名古屋大学イノベーション戦略室長、2018年早稲田大学研究戦略センター教授。社会貢献として、日本学術振興会計測分析プラットフォーム第193委員会委員長、日本学術会議分析化学分科会委員長に在任中。

登壇者

齊藤 信雄 : 長岡技術科学大学
分析計測センター 副センター長



1999年博士(工学)(長岡技術科学大学)、専門は触媒化学、表面科学、機器分析。2019年同大学分析計測センター副センター長、2019年からSHARE事業(技学イノベーション機器共用ネットワーク構築)における研究設備の学外利用および遠隔利用の実証実験を推進。趣味と実益を兼ねて分析機器を管理・操作し、分析機器をきっかけにした産官学の深い連携を目指しています。

込山 悠介 : 国立情報学研究所
コンテンツ科学研究系 助教



国立情報学研究所コンテンツ科学研究系助教。博士(農学)。2014年東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程を修了。2012年日本学術振興会特別研究員(DC2)。2014年東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター特任研究員。2016年より現職。2017年同オープンサイエンス基盤研究センターの発足に伴い、研究データ管理サービスGakuNin RDMの研究開発・運営および国際連携に従事。